

読者プレゼント

《愛読者ハガキ》

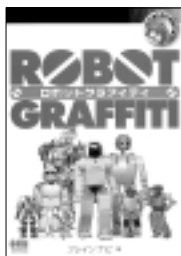
本誌とじ込みの「愛読者ハガキ」のアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で下記の商品を差し上げます。ご希望の商品に 印を付けたうえでご応募ください（複数選択も可。2002年8月15日消印有効）。

- A スーパーキャッチピンセット
提供：ホーザン株式会社



3名様

- B RoboBooks
ロボットグラフィティ



3名様

- C ロボコンマガジン特製
ラチェットドライバー



3名様

《資料請求ハガキ》

本誌とじ込みの「資料請求ハガキ」のアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で下記の商品を差し上げます。ご希望の商品に 印を付けたうえでご応募ください（複数選択も可。2002年8月15日消印有効）。

- A スーパーキャッチピンセット
提供：ホーザン株式会社



3名様

- B RoboBooks
はじめて作るロジックIC搭載ロボット



3名様

- C ロボコンマガジン特製
ラチェットドライバー



3名様

NPO安全工学研究所が設立される

安全工学研究所が民間非営利活動団体（NPO）として東京都から認証され、活動を開始した。

なぜ必要なのか？

設立の目的だが「広く国内外の有識者を募り、労働・生活安全に関して、日本における安全の国際社会に適合する学術的体系化、分類等を行う。また、国際基準の推進へ公平・中立の立場から第三者認証機関としての役割を担う。そのため、安全工学に関する調査研究、保険制度の研究、安全技術者養成のための教育啓蒙活動を行う」とある。

労働災害の実体として、機械による災害での死亡者がドイツでは1,000人に対して1人だが、日本では100人に1人という統計がある。これは、日本では安全に対する認識が少ないことを示す。また、日本国内に安全工学を学べる場所がなく、安全に対する啓蒙を行う必要が急務であることから本研究所在が設立された。

PLPの概念について語る理事長の杉本旭氏



ロボットが身近にいる社会

安全工学研究所の理事長である杉本旭氏は北九州市立大学の教授だが、日本ロボット学会の副会長でもある。杉本氏によると「ボーダレスな地球で新しい技術を社会で認めさせるには、グローバルな立場からの安全という障害を乗り越えなければなりません。機械の利点を認めて予想される事故の責任を免除するのは、自己責任と契約に基づく文化を持つ欧米の考え方であり、グローバルな安全確保の方法です。我国は、結果に対する責任を求める文化であり、依然として事故後対応PLの考え方をとっていますが、PLP（製造物責任予防）に基づくグローバルな考え方に切り替えないといいません」とのこと。

現状のPL法を鑑みると、介助ロボットのように力を強いロボット一般家庭への販売は難しいだろう。世界に通用する国際基準が、ぜひとも日本から発信されて欲しいものだ。

NPO安全工学研究所：所在地・連絡先

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-41-10 TEL.03-5941-2855 FAX.03-3247-4050 URL: <http://www.safetylabo.com/>